

講話「いろくの子供」

4

倉橋惣三

氣の散る子

(一)

此の前には氣の鈍い子供さいふので心持が始終さんよりして居るやうな子供のこゝを申しました。それを見た所大變反對に居ります所の子供が即ち氣の散る子供であります。この種類の子供は始終一つの事にじっくり心を落付けて居る事が出来ない、次から次へ氣が散つて居りまして、傍で見て居りましてもぎよろ／＼して居るのであります。斯ういふ子供が或る場合には極く小さい時からその特色が現はれて居るこゝがあります。例へば繪本を見て居るさいふやうな時でも、普通の子供は一々の繪に子供相當にゆつくり見て居るのに、その繪を次から次へはぐつて行きまして、一の繪には少しもじつこゝ目を付けて居ない。今見

て居る繪は直に次の繪に移るさいふやうな子供がある。或は玩具を持つて居りましても、一つの玩具に相當に長い間楽しんで居る子供がありますが、一寸いぢるこゝ、直にそれを棄て、しまつて他の玩具に移る、始終目まぐるしい程次へ／＼と移り廻つて居る子供があります。けれども元來子供の生活は大人のやうにそんなにしつくりこゝの事をして居る筈のものではありませんから、極く小さな中には特別に心付かないで済むのであります。併し段々大きくなりまして、例へば幼稚園に來る頃他の子供はそれ／＼に幼稚園の事業を相當熱心にやつて居る、或は先生のお話を相當に心を入れて聞いて居るさいふやうな時に、その氣の散り易い子供は少しも靜かにして居ないのであります。始終あたりを見廻はして傍視をして、その身體も靜かにして居ないさいふやうな風であります。更に學校に入つて落著いて勉

強をしなければならぬ頃になります。この違ひが格段なものになります。優秀な子供は與へられた課業を専心やつて居る、算術をいたすにしましても、圖畫を描くにいたしましても、或は裁縫をいたすにいたしましても、その仕事は専ら氣を入れてやつて居る、こころがさうも斯ういふ事の出来ない子供があります。著しい差別がそこに現はれて來るのであります。そこで斯ういふ子供はその周囲の種種のものに氣を奪はれて居るのでありますから、その子供としては相當に次から次に面白がつて居るのであります。先號に申上げました氣の鈍い子供がさんより、ぼんやり、うつかりして居るのに較べまして忙しさうに興味を追つて居るさういふ風な事もいへるのであります。けれどもその次へくさ心に移ります時にはさうしても一の事に就ては極めて淺いこころしか出來ないのであります。それが爲にその子供の頭腦全體の發達が非常に損をするのであります。元來人間の知惠の働きのさういふものは勿論知識の獨特の作用でありますけれども、併しそれが何處まで十分に働くかといふ事は寧ろ注意の方の問題に關係します。例へばも

のの能く分る子供でも氣を入れてしなければ分らない、記憶の相當にある子供でありましても注意深くその事を見なければ、聞かなければ記憶に残らない。種々考へて計畫する、工夫する力が相當にある子供でありましても一心にしなければ、その力は十分に出ない。即ち人間の頭腦はその頭腦自身の力の外に何處まで一生懸命その一のこころに心を纏めるかといふ事によつて大變に差別が出るのであります。

これは大人でも同じこころであります。殊に子供に於てその關係が強いのであります。そこで斯ういふ性質の子供は相當に知識の方の力がありましても、其を自ら一事に纏めて働かせて行くさういふ事は出來ない爲に常に知力的にも劣等な事になるのであります。あの子供の頭は相當によい頭である、時々思ひもよらぬ器用な考へなきが出るけれども、さうも全體としては本當にしつかりした知識生活が出來ないさういふやうな事を私共認める事が屢々ある。これは即ち知力がありましても心を纏める方の力に缺けて居る爲に起るのであります。斯ういふ事が段々重なつて行けば、その子供の學校生活全體を通して非常な損失を受けるさういふ

現はして参ります。その子の將來に就て頗る心許なく感ずるのであります。

(二)

そこで斯ういふ子供は種々の種類があります、同じく氣が散るを申ししても、その散り方が種々あるのであります。こゝにその重なるものを幾つか擧げて申します。第一には相當に物に始終氣を引締めて行く力の多い子供があります。前に申上げました繪本を見るにしても一の繪を見て居る中に直に次の繪の色彩に目を誘はれるこいふやうな子供は即ち外から來る刺戟に對してぎんぐ移つて行くのであります。音樂を聞いて居つても、外の一寸した音に直に耳を奪はれて行く、斯ういふ子供は即ち自分の精神をその今向つて居ります事に纏めて行く力が足りないと共に外からの影響に向つて餘りに感じ易い性質の子供であります。それから第二種の子供は外のものに次から次へ移るのではありませんが、一の事に氣を向けて居ります。この間にかそれと關聯した事が心の中にかくと起つて來るのであります。例へばお話を聞いて居る、そのお話はお

こゝは勿論であります。また大人にいたしましたしても世の中へ出て、總て種々な事に成功するか、しないか、必しも世間的にえらくなるか、さうかこいふ事は別として、その人としての自分の仕事、自分の職業、自分の研究、さういふ事は十分に成功するかさうかこいふ事は申すまでもなく、その人の熱心の加減に基くのであります。所謂天才こいふやうな人は勿論頭の作り方に違ひがあるのであります。うけれども、總ての天才にせよ、性は所謂凝り性でありまして、一つの事に殆んど脇目もふらず夢中になつて没頭するこいふ性質を有つて居る。昔からの名人悉くさうであります。即ちさういふ人のその驚くべき天才的の仕事の出来るのはその集注の力から慘み出る所の、或は集注の間に閃き出るまことの何物をか捉へてそれを何處までも中止する事なく完成して行くこいふ事に基くのであります。總てこの世の中に立つて自分の生活に、自分の精神を纏めて行く事の出来ない人はたこえ才氣がありましても本當の結果を擧げるこゝは出来ない。そこで私共が子供を見て居りまして、一寸小柄な子供でありましても氣の散り易い傾向を

話して次から次へ注意して聞かなければならぬのでありますが、其話のある事からヒョット自分の心は自分の今まで経験した何物かに結付いて來まして、そこに今聞いて居る話には、注意せずして、其から引出されて來た、種々の思ひ出さぬいふやうなものに氣が配くはつて置かれるのであります。これは或る意味に於ては子供の活潑なる創造性に基くご申してもよいのであります。申上ぐるまでもなく、子供はその心の中には實に豊富な創造性を有つて居る、例へば子供がこの頃の夏の日に椽側に出て白い雲を見て居るさしまするなれば、其白い雲を見て居りながら、目はその雲を見て居りながら、實は心の中ではお伽噺に聞いた夢の世界、空の世界、そんなものが心の中に次から次へ繰出されて來る、目に物を見て、心ではそれは丸で違つた方へ働いて居るさいふやうな事は子供には屢々あることであり、ますけれども、それは其として一種面白い事でありますが、今外の物に十分注意をしなければならぬさいふ時に、それが中から起つて來まして、其注意を奪つて行くさいふのは困るのであります、空想性の子供ご申してもよいと思ふ。

學校などで先生のお話を聞いて居りながら外から見た所では其お話を聞いて居るやうであつて、決してきよろぎよろご脇目をするさいふのではありませぬけれども、その精神はお話に集注してゐないさいふ事が屢々あります。

それから第三の種類は是等ご餘程趣きが違つて參るのであります。總て何事に就きましたも、今やつて居る事ご、其から生じて來る結果さいふものがある事ごは勿論であります、そこで私共は大人ごして何か仕事をいたします時にも今やつて居るご其自身ご、其から生じて來る結果ご兩方を頭の中に適當に有つさいふごは當然の事であります。けれども仕事その物に對する眞剣なる態度さいふものは結果をも忘れなければならぬ。その仕事に入ります時は結果を考へ目的を考へて、その爲に斯ういふ事をするのであるさいふ事は當然の事であります。けれどもサテ其仕事に入つてしまひましたなれば其より生ずる結果の如きは暫く念頭を去りまして、たゞその事自身に夢中に入り込んで居るさいふのでなければ本當の力強い生活は出来るものではない。殊に子供の本來の性質はさういふ點に於て極めて

特色を有つて居るのでありまして、大人のやうな打算的な結果主義的な態度を違ひまして、そのやつて居る事自身の興味、其にのみ引かされて行くといふのが子供の子供らしい、然かも尊い世界なのであります。所が或る種類の子供は子供でありながら自分のして居るこゝ自身には餘り氣を注がずして、其から生じて來る結果ばかりに氣を移して居る。こゝに子供に繪を描かすします。その描いた繪を展覽會のやうな事にするさします。普通の子供でありましたなれば、その展覽會に張出されるこゝいふ事を樂みにしてその繪を描出す。けれどもイザその繪を描出したこゝいたしま

すこゝの結果が展覽會に出るか出ないかこゝいふやうな事なまはいつの間にか忘れてしまつて、繪そのものゝ中に自己を没入させる。こゝろが氣の散り易い或る種類の子供は繪を描いて居ながら一寸描きかけては、これを何ういふ風に並べられるのであらうか、或はまた一筆描いては是を出して下さいますかこゝ先生の所へ聞きに來る。さういふ風にして絶間なく現在やつて居る事を離れては將來の結果の方に心を移して行くのであります。これはやはり、其やつて居

る事に精神を纏めるこゝが出来ないこゝいふ意味に於て氣が散るこゝいふ中に入れてよいと思ふ。

次に第四の種類はこれまた少しく趣きを異にします。その種類は自分で或る事をして居りながら必しもその結果の方に心が移るこゝいふのではありませんけれども、して居る自分こゝいふものが始終心に浮んで來るのであります。是は一寸分り憎いこゝのやうであります。例へば大人の場合で例を取つて申しませう。こゝに音樂を聞いて居る人があるとする。その音樂を聞いて居る時にはあの美しい旋律、あの美しいハーモニーに引かされて、自分の形が今ごうなつて居るか自分は今何處でその音樂を聞いて居るか、そんな事は全然無くなつてしまつて、その音樂そのものに酔ふたが如く聞きはれて居るのが當然であります。況や今自分が音樂を聞いて居るこゝいふ事さへも忘れてしまふ程その發音の中に吸込まれて居る筈であります。處が或る種類の人は折角の音樂を聞いて居ながら絶へず音樂を聞いて居る自分の形に氣を取られたり、或は音樂を聞いて居るがらいつの間にか音樂そのものよりも音樂を聞いて居る自

分の風流な高尚な詩的な事に自ら心が移つて来る。よく美術展覧會などに参りまして、私はさういふ人を見るのであります。あの美しい藝術の前に立ちまして、自分は今何處に來て居るか、どんなポーズでその繪を見て居るか、さういふやうなことは勿論念頭から去つてしまふ、或は自ら氣をつけなければならぬ事までも忘れてその繪の前に立盡してしまふのが當然だと思ひますが、中には繪を見ながら頭のことを氣にしたり、帯の事を氣にしたり、或は自分を繪の前に置いて居るその姿を誰かで見つて居るか、さういふやうな事に絶間なく氣を取られて居るさういふやうに見られる人があるのであります。私共は例へば何か善い事をする、可哀さうな人に何か物でも恵む、その時の私共の本當の心持は、たゞその人が可哀さうであるその可哀さうなこゝによりまして、私の心が絶へ難く動いて來まして、そこで何物かを分つていふに留まるべき筈である、所がながくさう行かない事が多いのであります、今日の前にある人に物を恵みながら、恵んで居る自分の心付く働きは、目の前に居る人の事よりも、今して居る自分の美しい行ひその物の方が自分

の心を占領するさういふやうな事は必しも稀ではないのであります。斯ういふこゝは私共の方の言葉では自意識が強過ぎるこゝ申します。自分さういふ意識が強過ぎるのであります。折角自意識を取去つて無我没頭の境地に入るべき場合でさへもその自意識はまたしても起つて來るさういふこゝになるのであります。所で子供の生活は實はさういふ者ではない筈であります。大人は殊に年頃以上の者は、さうも自意識が強過ぎて困るのでありますが、無邪氣な子供はさうでない筈であります。玩具を持つて遊んで居る。この頃なれば海岸の砂の中に眞黒になつて種々な戯れをして居る。たゞその砂が面白い。たゞその波に戯るゝこゝが面白い、たゞ友達と駆け廻るこゝが面白い、それが今自分はそんな形になつて居るか、そんな醜い形になつて居るか、そんな事なさは勿論氣にしないのであります。專念没頭その遊びの中に入込んで居るのが子供であります。そこへ私共が假に行きまして、肩を叩いて今何をしてゐたのであるか、聞きまします、殆ど思出せない程、その瞬間は瞬間にして充實して居るのが子供であります。所が時によります、さうも

其ういかぬ子供がある、いつでも自分さいふ事が氣に懸つて居る。いつでも自分さいふものゝ意識がつき纏つて居る。小さい子供には比較的ない事でありまして、七八歳以上からさういふ事が起るのでありますけれども、さういふ子供はやはり現在の生活に對して専念に生活するさいふ事が出来ないのでありますから、これまた一種の氣の散る子供さいふはなければならぬ。その他種々の場合に考へられると思ひますが、私が今一寸思出しましただけでもこの四種は區別されるのであります。

(三)

そこでさういふ子供に對しては如何なる注意を加ふべきか、如何なる教育的の方法を用ふべきかさいふ事はその四つの種類によりまして自らそれは違ひがあります。先づ第一に外の刺戟に容易に引かされて次から次へ移り氣に行くさいふ子供に對しては、さういふ刺戟を成べく與へないやうな生活を経験さして、そこに精神の纏まつて行く方の経験を重ねさせるより他ないのであります。此事の爲には消極的の注意と積極的方法とがよく與へられて居ります。

消極的の方面は例へばさういふ子供には餘り多くの玩具を與へないとか、餘り澤山の繪本、雜誌を與へないとかいふやうにつまり氣を散らないやうに側から仕掛けて行くのであります。これは極めて大切なことでありまして、殊に今日の都會生活に於て餘り刺戟の多い中に居ります子供には斯ういふ消極的方法を餘程考へてやらなければならぬ、今日のやうに次から次へ容易に玩具が與へられ、またあの澤山の繪雜誌が次から次へ與へられるさいふ時代に於きましては、そこに餘程の斟酌差引を加へて行かなければならない。また積極的方法としましては、さういふ子供は自ら己れの心を纏めて行くこゝが出来ないのでありますから、それを特別に鍛鍊しやうと、ある時間を極めて靜かに座らせて、靜かなる一室に於て精神集注の所謂凝念の生活をさせる、これを毎日繰返して居るなれば精神がさういふ風に向いて行くさいふ考があります。それは氣が纏らなくつて困る大人なさが靜かに禪堂に入つて心を統べる事と謂はゞ同じやうな仕方でありまして、また時には親が一緒にその子供と靜かに座つて、その子供の精神集注を計るさい

ふやうな事も至極よい事であると思ふ。けれども方法だけ
ましては小さな子供なごには相當に難かしい事でありま
す。殊に外の事に氣を取れないやうにその靜かな生活を
させて居ります中にいつの間にか前に申上げました第二種
類の状態に移る。外の事には氣が散らないけれども心の中
に滿つる雜念、種々な空想が止度もなく沸いて來る。こ
こは普通の子供にしては有勝ちの事であります。そこで
大人に出來るさいつて子供に直ぐその方法がうまく行つて
居るものだごは考へ憎いのであります。寧ろさういふ子供
に對してはさういふ抽象的な形式的な凝念法よりも何か實
際の仕事、實際の事業を與へてそれに向つて段々に精神を
纏めて行かれるやうにその工夫をした方が或はよいかと思
ふのであります。

第二種類の創造性の逞ましい爲に氣が一つに纏らないこ
いふ子供に對してはこれはやはりさういふ抽象的な生活か
ら具體的な生活へ向き變つて行くこいふ事によつてや、矯
正出來るかと思ひます。子供には考へさせて行くこいふや
うな事も必要でありますが、元來が具體的特色を有つて

居るものでありますから何か力仕事を課して、その仕事を
具體的に工夫し完成して行くこいふやうな事によつて、其
子の動いて來る心を制する事もよいかと思ふ。或はこの頃
でありましたなれば夏休みの間適當な大工道具、手工道具
そんな物を與へまして箱を造る、家を造る箱庭を造る、何で
もよいのであります。空想ではなくして物を形の上に造り
出して行く、個々の製作をさせるこいふ事は、斯ういふ子
供に對して餘程有效な結果を來すものではないかと思ふ。

第三の種類の、結果の方に心が動いて現在に没入、没頭す
る事が出來ない子供は、これは恐らくこれまでの教育が禍
ひする事と思ふ、私共の大なる誤りがこゝにあるかと思ひ
ます。子供に向つて何か一生懸命になれこいふ時に、其事自
身の大切さ、其事自身の興味、それを元こして勵まして行
かないで、後の結果の重大さを直ぐ持出すこごは教育
こいふ方法に於てやり勝の事であります。これは大人側の
打算主義からいへばそれは理窟に合ふけれども、子供には
寧ろ以外の事でありまして、その以外の事が段々大人のい
ひ方によつて平氣になつて、習性になつて、結果の重大さ

を思はなければ物事に力を入れられない。結果を考へるの
でなければ現在の物に眞剣に成り得ないさういふやうな事が
養はれてしまふのであります。これは子供の本来の性質を
誤まつた教育がさうしたのであると局限いたしてもよい位
である。故にさういふ子供に對してはさういふ事を少しも
與へないやうに是から氣をつけなければならぬと思ふ。

また第四の種類の常に自意識が起つて來て自分で自分の
生活が始終氣になつて仕方がない。それは人がさう見て居
るだらう、人にさう見へてるだらう、つまり見物人本位の生
活になるのであります。さういふ事も子供の性質本來では
なくして教育の誤りであると思ふ。没頭して居る子供、それ
自身に向つて餘計なおせつかいをして、やあ勉強をして居
るな、感心だな、えらいなさいふやうな外部からの批判を
妻りに加えたりしますと、そんな事は思ひ設けずに居りま
した子供が他動的に他律的に外からの種々な事に氣を配つ
て來るやうになるのであります。これもやはり教育の誤ま
りだましまするなれば私共は大に氣をつけなければならな
い。然かも既に斯ういふ傾向になりました子供に對しまし

ては、我々は慎んで結果意識、自意識、さういふ風なもの
を以て子供の心を失はないやうに氣をつけなければならぬ
事と思ひます。若し更に積極的にさういふ影響を十分に與
へて行かうとしまするなれば、私共自身は子供の側に居つ
て專念没頭結果を忘れ、自意識を忘れ、況や見物人を忘れ
たその熱心な生活を子供と共にするさういふことが必要であ
ります。と申しますと大層えらい事のやうであります。私
はあの子供を擱へて種々教育する人よりも自ら一生懸命お
仕事をして居らつしやるお母さん、自ら一生懸命洗濯物を
して居らつしやるお母さん、身なりも忘れてたゞその仕事
に没頭して居らつしやるお母さんなど、その傍に居ります
子供に對して、みんなに斯ういふ意味に於ける尊い意味を
與へて居るかさういふ事を思はずには居られないのでありま
す。斯ういふ事を種々申上げれば盡きないと思ひますが私
共の種々接します子供のうちいつも一番困るのは氣の散る
子供であります。殊に斯ういふ子供は性來頓才にたけて居
るが如く見へまして、心なき大人の中に屢々好い評判にな
るのであります。然かも決して本當のものにはならぬ人間